

安保法制は廃止!

憲法に基づく政治を!

衆議院東京18区＝武蔵野・府中・小金井で

統一候補を実現する

# 円卓会議

ラウンド・テーブル

政治を市民の手に!

政党と市民が本音で対話

衆議院議員(民進党)

小金井市議会議員(日本共産党)

ゲスト 菅直人さん

森戸洋子さん

安保法制を強行し、憲法を、そして国民の声を無視して突き進む安倍政権。目前に迫った参院選に向けて、本気で安倍政権を倒そうと各地で市民と野党の共闘が進み、統一候補が実現しています。

衆参同日選となったとしても、市民と野党が受けて立てるよう、衆院 小選挙区でも共闘を進めなければなりません。安保法制を廃止し、政治を市民の手に取り戻すために、統一候補をこの18区で実現していくための〈円卓会議〉を行います。国会会期末の直前、緊迫する政治情勢のなか、政党・政治団体、そして市民が集い、知恵を出し合い、信頼を築き、思い切った決断をしていきたいと思います。

5月30日(月)

19:00-21:30

小金井宮地楽器ホール(小ホール)

武蔵小金井駅南口すぐ(旧市民交流センター)

参加費:500円(定員150人・開場は15分前)

選挙で  
変えよう!

こがねい  
市民連合

主催:選挙で変えよう!こがねい市民連合

連絡先 090-1548-6014(陣内)

HP <http://unite-koganei.strikingly.com/> →



# 選挙で変えよう！こがねい市民連合 5.8 キックオフイベント

## 大盛況！〈統一候補〉実現へ、第一歩

「こがねい市民連合」は、衆参ダブル選挙に備え、東京18区（小金井市、府中市、武蔵野市）での、市民と野党の連携、統一候補の実現をめざし、5月8日にキックオフしました。会場は、120人余の参加者が集まり、満席。第一部では、ゲストのジャーナリストの青木理さんによる、安倍政治、メディアの現状などについてのお話。そして注目の第二部のトークセッションでは、「こがねい市民連合」からの問題提起を受け、民進党、日本共産党、小金井・生活者ネットワーク、市民自治こがねいからは、統一候補という初の試みにむけ前向きな意見が表明されました。

ゲストの上原公子元国立市長からは第19区での取り組みを紹介いただき、貴重なアドバイスもありました。締めくくりとして、今後も市民とともに、統一候補の実現にむけ協議を続けていくことを確認しました。

そして、うれしいことに参加された多くの方々に、賛同、共感のアンケートを書きいただき更に「こがねい市民連合」の賛同人の手続きをしていただきました。18区での市民の本気の闘いがこうして始まりました。

（こがねい市民連合共同代表 / 小林倫子）



政党・政治団体と市民が手をつなぎ 野党共闘への決意をアピール

### 一政党・政治団体からの発言要旨一

#### ●民進党（岸田正義 市議）

北海道5区では政党の枠や利害関係を越えた市民の統一候補が接戦を展開し、市民の力を証明した。解散総選挙となれば、政党としての公認はまだだが当然、現職の菅直人を擁立することになる。私見ではあるが、菅直人が必要であると思う一方で、安倍政権の暴走をストップさせるために統一候補の擁立は必要である。菅直人自身も市民連合の必要性を訴えており、より良い方向性を出していくための話し合いには参加していきたい。

#### ●日本共産党（小泉たみじ 北多摩中部地区委員長）

安保法制の問題など、安倍政権の暴走は深刻であり、非常事態である。参院選で野党共闘を進めているが、衆院でも進めて行きたい。しかし、小選挙区の共闘へ、政党間で議論が始められていない。衆参同日選へ向けて時間がいないため、森戸洋子の擁立を発表した。野党統一候補は、直近の国政選挙の比例票の割合で、政党間で割り振る形がふさわしい。共産党の候補へ統一する形、他の方で統一する形など、いろいろな可能性を探求していく。市民と共に取り組んでいくことが一番の力となる。

#### ●市民自治こがねい（片山かおる 市議）

人が自分らしく生きられない、ものが言えなくなってしまう社会になってしまう。原発事故以来、憲法が福島県境で留まっている状況を許してはいけない。18区で自民党の代議士が出ているが、何としても変えたい。市民の声を国会に活かすため、市民主体で選挙をすることをめざす。その次の選挙をにらんで地固めができる選挙を担っていけるといい。市民派の選挙の経験を活かすことができればと思う。

#### ●小金井・生活者ネットワーク（田頭祐子 市議）

今回の選挙は、何としても3分の2以上の議席を取らせてはいけない。18区では、市民が選ぶ候補者で1本化し、政党を動かしていく流れが必須。市議会では会派を超えて一致し、安保法制に反対する意見書を国会に提出している。統一は難しくても、市民も一緒に参加し、まずは話し合いの場を持つことが必要。この場に民進党、共産党が出てきた意味は大きい。立場を越えて戦っていく思いを確認できたことは重要であり、続けていきたい。

この他、社会民主党 小金井総支部（武井正明 元市議）より連帯のメッセージが寄せられました。

選挙で  
変えよう！

こがねい  
市民連合

18歳以上の若者たちが初めて国政選挙に参画する今夏の国政選挙は、「政治を市民の手に」取り戻す大きなチャンスでもあります。投票の選択肢（候補者）づくりや選挙で問われるべき争点を、国政政党だけにゆだねるのではなく、普段は政治に距離を置きがちな「ふつうの市民」が声をあげることが大切です。生活や仕事で苦境にある当事者たちの声を伝え、若い世代とともに日本の民主主義を、元気な姿に変えようではありませんか。

（選挙で変えよう！こがねい市民連合 設立趣旨より）



©長谷川義史